

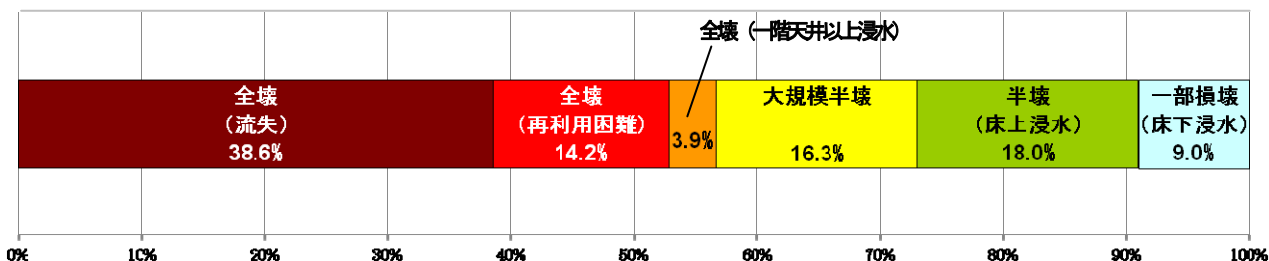
東日本大震災における津波による損壊状況調査

● 損壊状況

「東日本大震災からの津波被災市街地復興手法検討調査」(都市局調査)を基に水管理・国土保全局が作成

区分	全壊 (流失)	全壊 (再利用困難) ※1	全壊 (1階天井以上浸水)
主な建物状況	基礎だけ残して、建物が完全に流されている	主要構造が損壊しており補修により元通りに再使用することが困難	1階天井以上浸水しており、大規模修繕等による再使用も可能
サンプル写真			
棟数※2	92,509 棟	34,048 棟	9,438 棟
区分	大規模半壊	半壊 (床上浸水)	建物被災状況 (イメージ) 
主な建物状況	床から概ね 1m以上 (天井未満) 浸水している	床から概ね 1m未満の床上浸水 (一部補修により再利用可能)	
サンプル写真			
棟数※2	39,062 棟	43,145 棟	
区分	一部損壊 (床下浸水)	棟数合計	
主な建物状況	床下の泥を取り除けば再利用可能	被災建物総計 うち全壊	
サンプル写真			
棟数※2	21,483 棟	239,685 棟	135,995 棟

被災建物 棟数割合



「東日本大震災からの津波被災市街地復興手法検討調査のとりまとめについて」(都市局調査)

URL: <http://www.mlit.go.jp/toshi/toshi-hukkou-arkaibu.html>

(注) 福島原発事故に係る警戒区域内については、建物被災状況の調査は実施していない。

(注) 被災地の条件等により、現地踏査によらず、自治体からの提供資料による把握を含む。

※1 都市局調査では単に「全壊」とされているが、他の全壊区分と区別するため、「全壊 (再利用困難)」とした。

※2 都市局調査において損壊状況区分が「不明」とされている建物棟数については、50 cm区分で最もシェアが多い区分の損壊状況棟数に計上している。

バックデータ（全域）

〈浸水区域全域〉

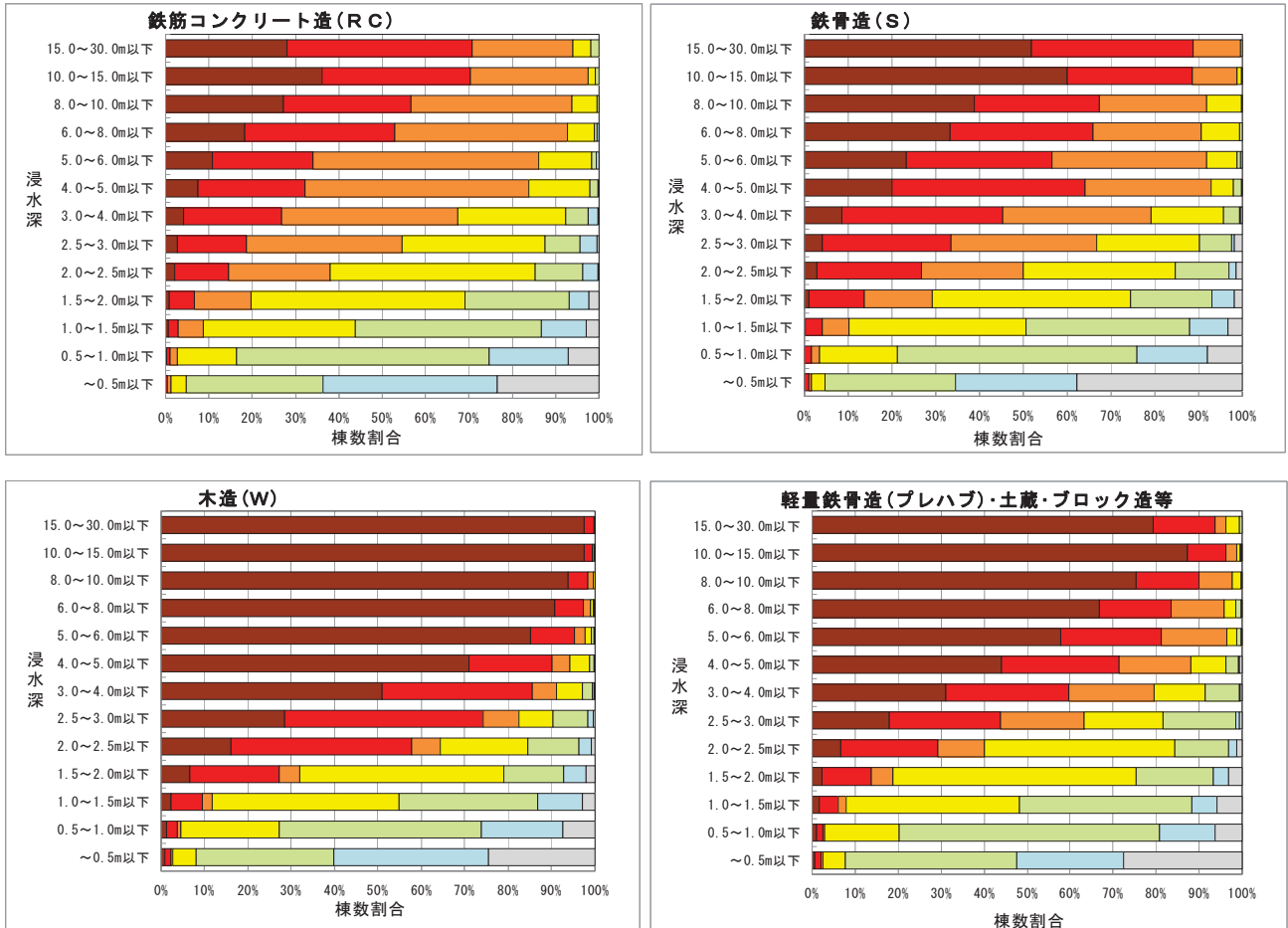
H24.3.30時点

浸水深	被災建物棟数（棟）※2						総計
	全壊(流失)	全壊(再利用困難)※1	全壊(1階天井以上浸水)	大規模半壊	半壊(床上浸水)	一部損壊(床下浸水)	
合計	92,509	34,048	9,438	39,062	43,145	21,483	239,685
割合	38.6%	14.2%	3.9%	16.3%	18.0%	9.0%	100.0%
～0.5m以下	320	516	106	1,852	10,934	11,158	24,886
0.5～1.0m以下	457	805	290	7,847	16,999	6,152	32,550
1.0～1.5m以下	791	1,828	612	11,960	8,788	2,602	26,581
1.5～2.0m以下	1,757	3,934	1,066	9,856	2,842	942	20,397
2.0～2.5m以下	2,830	5,835	1,135	3,407	1,601	352	15,160
2.5～3.0m以下	4,362	5,654	1,320	1,223	1,065	137	13,761
3.0～3.5m以下	5,668	4,224	1,046	857	423	50	12,268
3.5～4.0m以下	6,743	3,229	797	710	151	26	11,656
4.0～4.5m以下	7,069	2,038	652	514	113	15	10,401
4.5～5.0m以下	6,414	1,416	433	251	67	13	8,594
5.0～5.5m以下	5,498	870	376	127	41	14	6,926
5.5～6.0m以下	5,308	641	327	125	30	6	6,437
6.0～6.5m以下	4,860	459	213	59	25	5	5,621
6.5～7.0m以下	3,797	403	161	41	17	4	4,423
7.0～7.5m以下	3,459	299	129	37	16	3	3,943
7.5～8.0m以下	3,242	261	101	55	6	1	3,666
8.0～8.5m以下	2,705	212	94	61	3		3,075
8.5～9.0m以下	2,442	175	59	18	3		2,697
9.0～9.5m以下	2,444	167	103	14	2		2,730
9.5～10.0m以下	2,624	179	113	6	3		2,925
10.0～10.5m以下	2,135	89	46	3	3	2	2,278
10.5～11.0m以下	1,951	88	33	5			2,077
11.0～11.5m以下	1,627	80	27	5	2		1,741
11.5～12.0m以下	1,561	44	13	3	2		1,623
12.0～12.5m以下	1,422	51	15	2	1		1,491
12.5～13.0m以下	1,471	58	25	3			1,557
13.0～13.5m以下	1,691	75	19	1	1		1,787
13.5～14.0m以下	1,651	62	25	1	1	1	1,741
14.0～14.5m以下	1,568	51	21	2			1,642
14.5～15.0m以下	1,027	41	13	2	1		1,084
15.0～15.5m以下	680	23	6	3			712
15.5～16.0m以下	590	43	9	3	3		648
16.0～16.5m以下	372	37	3	2			414
16.5～17.0m以下	425	31	6	4			466
17.0～17.5m以下	400	41	16	2	1		460
17.5～18.0m以下	406	37	11		1		455
18.0～18.5m以下	176	5	4				185
18.5～19.0m以下	127	5	1	1			134
19.0～19.5m以下	84	3					87
19.5～20.0m以下	79	11	2				92
20.0m～	276	28	10				314

(注) 「東日本大震災からの津波被災市街地復興手法検討調査」(都市局調査)を基に 水管理・国土保全局にて作成。
 (注) 浸水深と建物被災状況の関係分析においては、浸水深0.0mや浸水深不明等における被災建物は対象から除いている。
 (注) 個々の建物の浸水深は基本的には100mメッシュ単位で把握している。なお、国土地理院により災害復興計画基図が整備されている地区等においては、地形を加味した精査を行い、個々の建物の浸水深を5mメッシュ単位で把握している。
 (注) 福島原発事故に係る警戒区域内については、建物被災状況の調査は実施していない。
 (注) 被災地の条件等により、現地踏査によらず、自治体からの提供資料による把握を含む。
 ※1 都市局調査では単に「全壊」とされているが、他の全壊区分と区別するため、「全壊(再利用困難)」とした。
 ※2 都市局調査において損壊状況区分が「不明」とされている建物棟数については、50cm区分で最もシェアが多い区分の損壊状況棟数に計上している。

2. 建物構造別の浸水深と建物被災状況の関係

浸水区域全域における浸水深と建物被災状況の関係を建物の構造別に整理した結果は下記の通り※。



- 凡例
- 全壊(流失)
 - 全壊
 - 全壊(1階天井以上浸水)
 - 大規模半壊
 - 半壊(床上浸水)
 - 一部損壊(床下浸水)
 - 被災なし

※被災現況調査では、現地調査等に基づき、被災した建物を「全壊(流失)」「全壊」「全壊(1階天井以上浸水)」「大規模半壊」「半壊(床上浸水)」「一部損壊(床下浸水)」に6区分している。区分の判定は原則として目視調査による。

※浸水深と建物被災状況の関係分析においては、浸水深 0.0m や浸水深不明等における被災建物は対象から除いている。

※個々の建物の浸水深は基本的には100mメッシュ単位で把握している。なお、国土地理院により災害復興計画基図が整備されている地区等においては、地形を加味した精査を行い、個々の建物の浸水深を 5m メッシュ単位で把握している。